

琉球大学学術リポジトリ

琉球語平安座方言の名詞の格

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学国際沖縄研究所 公開日: 2015-06-11 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 當山, 奈那, Toyama, Nana メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/31115

【研究論文】

琉球語平安座方言の名詞の格

當山 奈那*

Case Markers in the Ryukyuan Henza Dialect

TOYAMA Nana*

要旨

本稿では平安座方言を対象に名詞の格の分析・記述を行った。uti 格と Nzi 格はどちらも空間名詞にあらわれ〈動きや状態がなりたつ場所〉を表現するが、話し手から遠ざかる場所を示すときに用いられる傾向がみられた。これは、格助辞 Nzi は Nzi (行って) から文法化した格形式であるためである。また、ni 格と naka 格と Nkai 格の名詞があらわす意味における共通点と差異点をみていった。ni 格の名詞は面接調査においてはほとんどみられず、時間名詞に限定される。naka 格と Nkai 格の名詞は〈ありか〉や〈あい手〉をあらわす共通点をもつが、naka 格の名詞は Nkai 格の名詞のように〈ゆきさき〉をあらわすことができない。naka 格の表現する領域を Nkai 格が表現するようになりつつある。

Abstract

This study is a description and analysis of case marking on nouns in Henza Ryukyuan. The case particles "uti" and "Nzi" both occur with spatial nouns (expressing the place where an action or state occurs), but there is a tendency for them to be used for places that are far removed from the speaker. This is because the case marker "Nzi" is a grammaticalized form of the verb "to go." The differences and similarities in meaning between the cases marked by "ni," "naka," and "Nkai" have been analysed as well. The case expressed by "ni" almost never appeared during elicitation and its use seems to be limited with temporal nouns. The case markers "naka" and "Nkai" are similar in that they are used to express both locative and dative cases, but differ in that "naka" is used to express an allative case whereas "Nkai" is not. The use of "Nkai," however, has been expanding into the domain of "naka."

*琉球大学大学院人文社会科学部研究科博士課程後期。日本学術振興会特別研究員。Ph.D. Student, Graduate School of Humanities and Social Sciences, University of the Ryukyus. Japan Society for the Promotion of Science Research Fellowship for Young Scientist.

はじめに

平安座方言とは、平安座島で話されている地域方言のことをさす。平安座島は勝連半島の東北に位置し、1971年に完成した「海中道路」で与勝半島と結ばれている。この「海中道路」を介して、宮城島、浜比嘉島、そして、与勝半島の屋慶名と隣接している。周囲は約 6500 メートルで総面積は埋め立て地を含めて約 5 キロ平方メートル、最高点は海拔 130 メートルである。宮城島側の島の北東側は埋め立てられており、白い石油タンクが並んでいる。

年代によって発音や文法に若干の違いがみられるが、60 代以上の方は日常的に方言を使用している。毎週水曜に平安座自治会館に年輩者が集まり、楽しくおしゃべりをする「水曜会」や、自治会運営のゲートボール大会が開かれる。また、行事の多い平安座島ではアドバイザーとしての年輩者の存在は重要である。年に一度、平安座公民館において方言大会「しまくとうばひ語やびら大会」が催され、島の小中学生による平安座方言を使った朗読や演劇が上演される。

話者に若い方が多く、年輩の方も元気で、日常的に平安座方言が使用されており、沖縄島内では比較的安定した方言に見えるが、小中学校の統合問題にみられるように人の流出が激しく、行事においても言語においても継承する人がいない状況である。

本稿では、平安座方言を対象に名詞の用法について、現時点までの調査で得た用例をもとに記述した。今の段階では、名詞の文法的な形についての全体像を描き出すことはできないが、現在までに得たデータに基づいて、わかることを述べる。

1. 先行研究と本研究との関わり

久米島、粟国島を含む慶良間諸島、伊是名島、伊平屋島、古宇利島のような沖縄本島の西に位置する周辺諸島と比べても、東海岸の周辺諸島の方言研究はずっと少ない。東海岸においても、久高島、奥武島、津堅島、また、平安座島と同じく海中道路でつながっている伊計島、浜比嘉島には音韻に関する先行研究があるものの、平安座島、そして、平安座島の隣島、宮城島をとりあげている先行研究は全くなく、平安座共有連合会（2008）による語彙集があるのみである。

筆者の属する琉球大学琉球方言研究室では、平安座島で話されている平安座方言について調査を行い、2011年に『沖縄県うるま市平安座島の方言—語いと音声を中心に—』という方言教育用のテキストを作成した。また、2012年には『平安座方言の名詞』を作成している。しかし、いずれも教材として簡単にまとめたもので、専門的なものではない。

2. 分析の方法

本稿のデータは、全て平安座出身／在住の話者3名、T・I（S3生、女性）、M・T（S4生、女性）、M・M（S10生、女性）への面接調査によるものである。用例は簡易的な音韻表記を用いる。問題とする文の部分は下線_____で示し、格

形式やとりたて助辞は「= (ハイフン)」で示す。格やとりたてについての考え方は鈴木重幸 (1972) による。

分析・記述は形態論的な観点から行い、名詞の格がもつ多義的な意味を整理していくが、文の部分の材料でもある以上、連語論や、主語、述語、補語を問題にする構文論とも関わる。構文論の観点を取り入れた分析を行うが、格の意味・用法の相互関係や共通性、差異性を詳しくみていきながらも、名詞の格体系と文の部分の体系とは区別する。

3. 平安座方言の名詞の格形式一覧

格とは、「名詞が文や連語のなかで他の単語に対してとることがら上の関係の違いをあらわす文法的なカテゴリー¹」である。平安座方言には、ハダカ格、ga 格、nu 格、Nkai 格、naka 格、ni 格、uti 格、Nzi 格、hi 格、kara 格、madi 格、tu 格、juka 格の 14 の格形式がある。これらは、形式面からの名付けである。意味面からそれぞれの格を名付けると次のようになる。

【表 1】意味面からみた格

∅	対格／主格／属格	ACC／NOM／GEN	accusative／nominative／genitive
ga	主格／属格	NOM／GEN	nominative／genitive
nu	主格／属格	NOM／GEN	nominative／genitive
Nkai	方向格	ALL	allative
naka	与格	DAT	dative
ni	時間格	TIM	time
Nzi	場所格 1	LOC1	location
uti	場所格 2	LOC2	location
hi	具格	INS	instrumental
kara	奪格	ABL	ablative
madi	目標格	LMT	limitative
tu	共格	COM	comitative
juka	対比	CMP	comparative

形式面から名付けても、意味面から名付けても、各々の格が多義的である点是不変である。そのなかでもハダカ格、nu 格、ga 格の名詞は、連用的にはたらくことも連体的にはたらくこともできる点で他の形とは大きく異なる。

また、日本語では、連用格のあとに「=の」を後接させて合成的な形式を作るが、平安座方言では、現在までに格助辞「**madinu** (までの)」の合成的な形式のみ確認している。連体格の他に、合成的な格の形式として「**madiNkai** (まで

に)」がみられた。

3-1. ハダカ格

名詞は格助辞を後接させないで文中でつかわれることもある。これを名詞のハダカ格という。ハダカ格は基本的な格であって、格が後接していないこと（格助辞ゼロ）を形式上の特徴としている。

ハダカ格の名詞には、主格と対格と属格の用法とがある。主格になる場合は、動作や状態のもち主をあらわし、対格の場合は動作の対象をあらわす。ハダカ格の名詞が属格としてはたらく場合、つづく名詞の所有先を表現する。

3-1-1. 主格

ハダカ格の名詞が主格としてはたらく場合は、動作や状態のもち主をあらわす。

nusudu cjo:Ndo:. ?wi:kuruhwa:.

泥棒が きているぞ！ 追いかける。

(1) ama=nu iwaba takahagutu ari=ga ?wi:=kara tubikude: naraNdo:.

あの 岩場は 高いから あの 上から 飛び込んで は いけないよ。

3-1-2. 対格

ハダカ格の名詞が対格としてはたらく場合は、述語になる他動詞のはたらきかけをうける対象をあらわす。

(2) asabaN kadi ku:i.

お昼ごはんを 食べて くるね。

(3) taru:=ga huN jumagi:gutu ?ja:muN uri huN juma:.

太郎の 本を 読むから お前も その 本を よめ。

(4) Nmi=Nkai Nnuzigwa: jubi:ga=ru icuhiga ?ja:mo: ma:=Nkai icuga:.

海に シマダコを とり に いくけど あなたは どこに いくの？

(5) sasiN utuhwa:hja:.

写真を 写そうね。

(6) oka: ziN 'i:rada:.

お母さん、お金を もらおう。

3-1-3. 属格

ハダカ格の名詞が属格としてはたらく場合、つづく名詞と組み合わせさせて規定的にはたらく。

(7) taru: kuruma:=ja kurudi:. (所有者)

太郎の 車は 黒い。

(8) wano:ja:i. ?ja: kuce: kurudi=ru `u:Nhĩ:. (全体としての人)

うわあ！ あんなの 口は 黒くなっているよ。

ハダカ格の時間名詞は、状況語としてはたらいて、文の出来事が実現する外

的な時間を表現する。

(9) ei cu: asibaja:. (時間名詞・動作の外的な時間)

ねえ、今日 あそぼうよ。

(10) kju:nu saNgwacusaNnici jaruhĩ:. (時間名詞・動作の外的な時間)

旧の 三月三日だよ。

(11) juru ke:ti cu:ha. (時間名詞・動作の外的な時間)

夜に かえって くるよ。

(12) ke:biNtetsudo: nuti icuNdo:. (空間名詞・くつつく対象)

軽便鉄道を のって いくよ。

ハダカ格の人名詞が独立語としてはたらいて、よびかけをあらわす。この場合の人名詞は親族名称や固有名詞が多い。

(13) oka: ziN 'i:rada:.

お母さん、お金を もらおう。

naiN (なる) や huN (する) のような単語とくみあわさって合わせ述語になる場合にもハダカ格があらわれる。

(14) dusigwa: naraja:.

友達に なろうね。

(15) su:zi hugutu kwa:wai.

お祝いを するから おいでね。

3-2. ga 格

ga 格の名詞は、主格と属格がある。主格になる場合は、動作や変化、状態のもち主をあらわす。属格の場合はつづく名詞の所有先を表現する。

3-2-1. 主格

ga 格の名詞が主格としてはたらく場合は、動作や変化や状態のもち主をあらわす。

動作の主

(16) ?ja:=ga aNnagi:nu ki:=ja aNhuka takahara aru.

お前が 言っている 木は そんなに 高いの？

(17) uri tamaNja ta:=ga katami:gahĩ:.

この タマンは 誰が 担ぐの？

状態、変化の主

(18) ni:muci=ga Nbahanu taihi muQcjaN.

荷物が 重いので 二人で 持った。

(19) cu:ja beNkjo:=ga umamadi uwarugae:ka niNdaN.

今日は 勉強が ここまで おわるまで 寝ない。

評価や感情の対象

また、次のような評価や感情がむけられる対象に ga 格の名詞があらわれることがある。

(20) taru:=ja teNpura:=garu masi jaha. (評価や感情の対象)

太郎は 天ぷらが 好きだよ。

3-2-2. 属格

格助辞 ga の後接した代名詞が名詞を限定する規定語としてはたらく属格としての用法もみられた。

(21) ama=nu iwaba takahagutu ari=ga ?wi:kara tubikude: narando:.

あの 岩場は 高いから あれの 上から 飛び込んではいけないよ。

3-3. nu 格

nu 格の名詞は、属格としても主格としてもはたらく。

3-3-1. 属格

nu 格の名詞が属格としてはたらく場合、人名詞、場所名詞、代名詞に後接して、つづく名詞のもちぬしの指定をしたり、あとにつづく名詞にさしだされるものが存在する場所を指定したり、関係規定的(その組織に所属するところの)な意味をあらわす。

(22) taru:=nu karadze: mutumutu kurudo:tahĩ:. (人名詞・もちぬしの指定)

太郎の 髪は もともと 黒かったよ。

(23) mukase: curaka:gi:=nu karaze: kurudo:tahĩ:. (人名詞・もちぬしの指定)

昔は 美人の 髪は 黒かったよ。

(24) zira:=Nkai niwa=nu kusa turahwa:. (場所名詞・状況的なことからの指定)

二郎に 庭の 草を とらそう。

(25) ama=nu iwaba takahagutu ari=ga ?wi:=kara tubikude: naraNdo:. (代名詞・状況的なことからの指定)

あそこの 岩場は 高いから あの 上から 飛び込んではいけないよ。

(26) mici=uti sjo:gaQko:=nu ko:cjo:seNse:=Nkai icataN. (所属組織)

道で 小学校の 校長先生に 会った。

(27) nika:he: henza=nu Qkwagwa:ta: buru gaNzu:hataNdo:. (所属組織)

昔は 平安座の 子供たちは みんな 元気だったよ。

3-3-2. 主格

nu 格の名詞が主格としてはたらく場合、述語のさしだす動作や変化や状態のもち主をあらわす。その nu 格の名詞は現象名詞やもの名詞に限られるようである。人名詞の例はみられない。

(28) ami=nu huigutu ?ja: to: akiNnakwa:.

雨が 降っているから お前は 戸を あけるな。

(29) ne:=nu cu:Ndo: ja:du akira:.

地震が きているよ。 窓を 開ける。

(30) kazuko:ta: ja:=nu uhuntu=kara kibui=nu Nzito:Ndo:.

かずこ達の 家の 台所から 煙が 出ているよ。

(31) ziN=nu kakaigutu na: kiQte acimiNnakwa:.

お金が かかるから もう 切手は 集めないでよ。

madinu 格

これまでに madinu (までの) という合成的な格の形を確認している。madinu 格は規定語になってつづく名詞を限定する連体格である。場所名詞にくつつく例がみられた。

(32) nagu=kara na:ha=madinu basude:=ja cjaQsajagaja:.

名護から 那覇までの バス代は いくらかな。

3-4. Nkai 格

Nkai 格の名詞は、間接対象の補語としてはたらき〈ゆくさき〉〈ありか〉〈あい手〉などをあらわす。

〈ゆくさき〉

Nkai 格の場所名詞は、方向性をもつ移動動詞とくみあわさって、移動動作のゆくさきをあらわす。

(33) Nmi=Nkai Nnuzigwa: jubi:ga=ru icuhiga ?ja:mo: ma:=Nkai icuga:.

海に シマダコを とりに いくけど あなたは どこに いくの？

(34) waQta:=ja nama=kara na:ha=Nkai asibi:ga icuNdo:.

私たちは 今から 那覇に 遊びに いくよ。

(35) katamiti naNza=Nkai icuNdo:.

担いで ナンザに 行くよ。

(36) kuruma: micibata=Nkai siNkitaN.

車は 道ばたに 寄せた。

〈ありか〉

Nkai 格の場所名詞は、存在動詞とくみあわさって、〈ありか〉をあらわす。

(37) taru:=ja kuzu=kara to:kjo:=Nkai `u:N.

太郎は 去年から 東京に いる。

〈あい手〉

Nkai 格の人名詞は、授受動作のあい手や使役のあい手をあらわす。

(38) ari=Nkai ziN kwira:.

あいつに お金を やれ。

(39) uQtugwa:ta:=ga wanu=Nkai hoN 'i:raci.

後輩たちが 私に 本を くれた。

(40) cinu: pa:pa:=ga wanu=Nkai huN judi turacjaN.

昨日は おばあちゃんが 私に 本を 読んで くれた。

(41) na:hi:gwa: taru:=Nkai ?ja: kwa:si kamahwa:.

もうすこし 太郎に お前の お菓子を 食べさせろ。

名詞が **kai** 格でさしだされる例も散見されたが、場所名詞（あるいは場所をたずねる疑問詞）で〈ゆくさき〉をあらわす例に限られた。全て **Nkai** 格で言い換えが可能であるため、**Nkai** 格のヴァリエントとみなす。

(42) Nmi=kai nu: hi:ga icuga:.

海に 何を しに 行くのか。

(43) Nmi=Nkai Nnuzigwa: tuiga=ru icuNdo:. ?ja:mo: ma:=kai jaga.

海に シマダコを とりに いくけど あなたは どこなの？

(44) ei, ?ja:mo: nama=kara ma:=kai icuga:.

ええ！ あなたは 今から どこに いくの。

mediNkai 格

これまでに **mediNkai**（までに）という合成的な格の形を確認している。ここで **mediNkai** 格の時間名詞は、述語の動作が完結するまでの時間的な制限をさしだしている。

(45) gozi=mediNkai ke:randare: naraN.

五時までに 帰らないと ならない。

3-5. naka 格

naka 格の名詞は間接対象の補語としてはたらく。**naka** 格の名詞のあらわす間接対象には〈ありか〉と〈うけみのあい手〉がある。

〈ありか〉

nu 格の空間名詞は存在のありかをあらわす。

(46) so:gaQko:=nu me:=naka aNda:.

小学校の 前に あるよ。

(47) acja: iQta: oto: ja:=naka 'u:N.

明日は あなたの お父さんは 家に いる？

(48) kuzu to:kjo:=naka 'u:nu Nmaga=ga asibi:ga cjo:taN.

去年 東京に いる 孫が 遊びに 来ていた。

〈うけみのあい手〉

naka 格の人名詞はうけみの形をとる動詞とくみあわさって、うけみのあい手

をあらわす。(50)の例のように物名詞が人のようにあらわされてうけみのあい手をあらわすこともできる。

(49) zira:=ja gaNmarihici usume:=naka nura:QtaN.

二郎は いたずらして おじいさんに 怒られた。

(50) kuru kuruma:=naka haniraQti.

黒い 車に はねられた。

3-6. ni 格

ni 格の時間名詞は、状況語としてはたらいて文のあらわす出来事の実現する時間をあらわす。これまで、時間名詞に限られて状況語としてはたらく例しか確認できていない。

(51) se:ziNsiki=nu ba:i=ni ciN cici.

成人式の 時に 着物を 着た。

(52) wano: niNzjuru me:=ni deNki ke:cjaNdo:.

私は 寝る 前に 電器を 消したよ。

3-7. Nzi 格

Nzi 格の空間名詞は、状況語としてはたらき〈動きや状態がなりたつ場所〉をあらわす。格助辞 Nzi は、動詞 icjuN (行く) の中止形 Nzi (行って) が文法化したものである。はなし手のいる場所(発話の場所)と異なる空間で動作が行われるばあいに使われる。この点で次節の uti 格と異なる。ただし、この区別は失われつつあるようである。

(53) ma:=Nzi asibuga.

どこで 遊ぶ?

(54) waQta: ja:=Nzi asibaja:.

私の 家で 遊ぼうよ。

3-8. uti 格

uti 格の空間名詞は、空間の状況語としてはたらき、〈動きや状態がなりたつ場所〉をあらわす。格助辞 uti は、動詞 uN (居る) の中止形 uti (居て) が文法化したものである。

(55) cinu: mici=uti do:kju:sei=tu icjataN.

昨日 道で 同級生と 会った。

(56) mici=uti sjo:gaQko:=nu ko:cjo:seNse:=Nkai icjataN.

道で 小学校の 校長先生に 会った。

3-9. hi 格

hi 格の名詞は、間接対象の補語、修飾語としてはたらく。

間接対象 (道具)

hi 格の物名詞は、かざられ動詞であらわされる動作の成立をたすける〈道具〉をあらわす。格助辞 hi は、動詞 huN (する) の中止形 hi (して) が文法化したものである。

(57) kuruma:=hi icuNdo:.

車で いくよ。

修飾語 (動作のようす)

hi 格の状態名詞は述語のあらわす動作や状態のようすをあらわす。

(58) mu:ru=hi umi=Nkai uriQti naNzaiwa=madi aQci icuNta:.

みんなで 海に 降りて ナンザ岩まで 歩いて いくよ。

(59) wanoja:i. mu:ru=hi su:zi hu:bahana:.

わあ! みんなで お祝いを するんだよね?

3-10. kara 格

kara 格の名詞は、間接対象の補語、時間の状況語としてはたらく。

〈やりとりのあい手〉

kara 格の人名詞は、求心的方向の授受のあい手をあらわす。

(60) dusi=kara hoN 'i:te:hī:.

友達から 本を もらったよ。

〈出発点〉

kara 格の空間名詞は、文の中で間接対象の補語としてはたらしき、移動動作の出発点をあらわす。

(61) agatu:na:=kara cjaNba:na:.

遠いところから 来たの?

(62) ama=nu iwaba takahagutu ari=ga ?wi:=kara tubikude: naraNdo:.

あの 岩場は 高いから あの 上から 飛び込んでは いけないよ。

(63) cinu: kaidaN=kara utiti.

昨日 階段から 落ちた。

(64) uka:hagutu na: ki:=kara urira:.

危ないから もう 木から 降りろ。

〈動きや状態がはじまるとき〉

kara 格の時間名詞は時間の状況語としてはたらしき、動きや状態がはじまるときをあらわす。

(65) waQtaja: nama=kara na:ha=Nkai asibi:ga icuNdo:.

私たちは 今から 那覇に 遊びに いくよ。

(66) nizi=kara asiba.

二時から 遊ぼう。

3-11. madi 格

madi 格の後接した場所名詞は、文の中で補語としてもちいられて〈ゆくさき〉をあらわす。

(67) masija: cja:hici na:ha=madi icugahĩ:.

いいね。 どうやって 那覇まで いくの？

(68) mu:ru=hi umi=Nkai uriti naNzaiwa=madi aQci wataiNta:.

皆で 海に 降りて ナンザ岩まで 歩いて いくよ。

3-12. tu 格

tu 格の人名詞は、間接対象の補語としても修飾語としてもはたらく。かざられ動詞があらわす動作をともにおこなう〈なかま〉をあらわす。このとき、述語であらわされる動作は、かならずしもこの種の対象語を必要としない。

〈相互動作のあい手〉

tu 格の人名詞は、間接対象の補語としてもちいられ、相互動作をあらわす動詞のあらわす動作の〈あい手〉をあらわす。

(69) waQta: ?aNma:=tu mazuN icuNdo:.

私の お母さんと 一緒に いくよ。

〈動作の様態〉

tu 格の人名詞は、述語のあらわす動作をかざる修飾語としてはたらく。

(70) cinu: mici=uti do:kju:sei=tu icjataN.

昨日 道で 同級生と 会った。

次の=tu の形式は、他の単語に対して同種の関係をもつ二つ以上の名詞のあいだの関係をあらわすならべの助辞である。本来は、格のくつつき、とりたてのくつつきに加えてならべのくつつきとして扱わなければならないが、紙幅の都合上、また、用例がこれのみのため、ここにあげておく。

(71) merikiNgu:=tu tamagu=tu maNziti.

小麦粉と 卵と 混ぜた。

3.13. juka 格

juka 格の名詞は、主語でしめされるものと比較されるものをしめしている。例えば、次の例は、現在の状態を、昨日の状態と比較して述べている。

(72) cinu:=ja hanako:=ja gaNzu:jatahiga cu:=ja cinu:=juka waQsaku=ru nato:hĩ:.

昨日は 花子は 元気だったが 今日は 昨日より 悪く なっているの。

(73) teNpura=juka sasimi=garu ma:haNhi:.

テンブラより 刺身が すきだね。

3.14. 引用 Ndi

名詞の格として扱うべきかまだわからないが、引用、内容をしめす Ndi が名詞にくつつく例をあげておく。

(74) Nkase: arerugi:=Ndi muno: ne:Ntagutu warabi:=ja mu:ru gaNzu:hataNdo:ja:.

昔は アレルギーって ないから 子供たちは みんな 元気だったよね。

(75) ure: nu:=Ndi ju:ga.

これは なんて いうの。

まとめ

本稿では平安座方言を対象に、名詞の格の分析・記述を行った。これまでとりあげた格のなかの意味と用法のあらわれる条件について、特に格のあいだの対応関係からまとめる。

まず、uti 格と Nzi 格はどちらも空間名詞であらわれ、〈動きや状態がなりたつ場所〉をあらわすという共通点がある。しかし、Nzi 格の名詞は話し手から遠ざかる場所を示すときに用いられる傾向がみられた。格助辞 Nzi は、動詞 icjuN (行く) の中止形 Nzi (行って) が文法化したものであるからであると考ええる。ただし、ひと世代若い平安座の方に確認したところ、同じ用例でも uti 格の名詞を用いることが多かった。uti 格は周辺地域の方言の影響をうけた格形式の可能性がある。

また、ni 格が面接調査においてはほとんどみられず、時間名詞にしか用いられなかった。これは、談話資料などから確認する必要がある。naka 格と Nkai 格の名詞は、どちらも〈ありか〉や〈あい手〉を表現する。これまでに得られた用例では、〈あい手〉の例でも、naka 格の名詞はうけみ動詞の形式とむすびついて〈うけみのあい手〉をあらわし、Nkai 格の名詞は使役動詞や授受動詞とむすびついて〈使役のあい手〉や〈やりとりのあい手〉をあらわすというむすびつく動詞における違いはみられた。しかし、naka 格の名詞は Nkai 格の名詞ように〈ゆきさき〉をあらわすことはできない。逆に、Nkai 格の名詞は〈ありか〉をあらわすことができる。このことから、平安座方言では、Nkai 格の使用領域が naka 格の領域まで広がりつつある状況にあると考えられる

【注記】

¹⁾ [鈴木重幸 (1972) pp.205]

【参考文献】

言語学研究会編 (1983) 『日本語文法・連語論』、むぎ書房、東京。

国立国語研究所 (1983) 『沖縄語辞典』、大蔵省印刷局、東京。

鈴木重幸 (1972) 『日本語文法・形態論』、むぎ書房、東京。

平安座郷友連合会 (2008) 『平安座郷友連合会創立 25 周年記念誌』、ゆい出版、沖縄。

琉球大学琉球方言研究室 (2011) 『沖縄県うるま市平安座島の方言一語いと音声を中心に』、琉球大学法文学部国際言語文化学科琉球方言研究室、沖縄。

琉球大学琉球方言研究室（2012）『沖縄県うるま市平安座島の方言－平安座島の名詞』、琉球大学法文学部国際言語文化学科琉球方言研究室、沖縄。